



KUMAMOTO

YMCA NEWS

THE KUMAMOTO
YOUNG MEN'S
CHRISTIAN
ASSOCIATION

No.540

2017

7



会長2期目を迎えて YMCAが目指す「優しい社会」

熊本YMCA会長
NPO法人 IOBスポーツ推進事業団 理事長
NPO法人 自立応援団 理事長
福島 貴志さん

熊本YMCA会長として2期目を迎えた福島貴志さん。ボランティア組織のトップに立つ福島さんの「人」としての姿と会長としての思いに迫りました。

会社管理職の地位を捨て、NPOを立ち上げる

大手スイミングスクールの指導者から管理職まで登りつめた“叩き上げ”。約20年の経験に裏打ちされた仕事に自信と自負を持っていましたが、今から15年前、人生のハンドルを大きく回ることになります。「当時、障がいのある人もスクールに通っていましたが、運営方法が変わったことでマンツーマンや少人数での指導が難しくなりました」。それをきっかけに、長年勤めた会社を退職。障がい者が水泳を楽しむためのNPO法人「IOBスポーツ推進事業団」(以下「IOB」)を立ち上げました。

「NPOは“戦い”から始まりました。障がい者を受け入れてくれるプール施設が見つからないんです」。幼い我が子二人を抱えて、収入は激減。夜間は警備員のアルバイトを掛けもちし、3時間の睡眠時間で家族を支えました。しかし辛いと感じたことはなかったといいます。「できない理由を1つずつ消していけば『できる』に変わる」という持ち前のポジティブさを強みに進み続けました。

「IOB立ち上げからしばらくして、うれしい変化がありました。公共のプール

で障がい者の指導をしていたのですが、最初は障がい者を遠巻きに見ていた一般利用者が、日ごとに声をかけたり、一緒に泳いだりするようになったのです。『みんなが優しくなっている。社会は変わる』と感じた瞬間でした」。

「自立応援団」とは

「ある日、私が水泳の指導をしていた障がいのある方が突然『来れなくなる』と言いました。理由は『もう、お金がない』」。その時、障がい者が働きにくい社会の現状に気づいたといいます。「障がいのある方にも、スポーツや娯楽を楽しむ、住む場所や仕事を選ぶ権利がある。その権利を守らなければいけない」と考えるように。2006年に、障がい者の就労や住居探しをサポートする、特定非営利法人(NPO法人)「自立応援団」の理事長に就任しました。

2009年には、当時は珍しかった「就労継続支援A型事業所」(障がい者が雇用契約を結び給与を受け取って働く作業所)になり、現在、B型事業所とグループホーム、訪問居宅介護事業所を持つ組織へと成長しています。利用者の給与水準を上げて、住みたいと思う場所に住め、楽しみたいことを楽しめるサポートを行うため、団体・企業と協力し、時には社会と“戦い”ながら、優しい社会に変える活動を続けています。

ボランティア会員から市民力を引き出したい

YMCAの会員となったのは、IOBを設立した時期。YMCAのサポート団体「熊本ワイズメンズクラブ」に入りました。「YMCAから学ぶことは多かったですね。様々なネットワークを活かして行われる活動に参加することで、自分がNPOでやろうとしていることは間違っていないんだと思うことができました」。それから約15年。中央YMCA運営委員長、リソース推進委員を経て、熊本YMCA会長に選任されました。

多忙な日々を送る中、YMCAの活動を続ける理由を尋ねました。「人々の善意に支えられて活動しているYMCA。その歴史と文化は、社会を成長させることができる可能性を持っています。例えば自身のお金をYMCAへの『募金』に使うということは、『私は子どもたちの未来を考え、支えたい』という意思表示です。このような機会を増やせば『市民力』が育ち、優しい社会へ変わるはず」。だからこそ、と前置きして話します。「YMCAの活動の肝になるのは、ボランティアである会員です。職員に負荷がかかりがちですが、『市民』の代表である会員がボランティア活動に主体的に取り組むことが、あるべきYMCAの姿です。私も、ボランティアの会長という立場だからこそ、YMCAの理念のために声を上げることができています。会員のボランティアとしての主体的な活動を原動力に、YMCAのための熊本YMCAではなく、“市民一人ひとりのための熊本YMCA”を互いに確認しあいながら、皆でより活性化できればと願っています」。



2017年度 熊本YMCA大会



復興支援活動 阿蘇市の三久保仮設団地にて

Pickup



みなみYMCA
父の日親子ボクシング



黒川保育園
ワクワクのプール開き
むさしYMCA
体育英語幼稚園
ペンギンクラス
父の日はネクタイの
プレゼント!



共に歩む復興への道 2017年度熊本YMCA

第1部 礼拝



熊本聖書教会牧師の長澤忠雄さんより「Be One 一つになって」をテーマに奨励が行われ、「全ての人一つとなるために働きましょう」とメッセージが送られました。(内容は下段にてご紹介しています)

第2部 定期総会



2016年度の事業報告及び収支決算、続いて2017年度事業計画と収支予算が報告されました。また、定期総会前に行われた投票の結果、15名の常議員が選任されました。

第3部 表彰・団体紹介



10年、20年、30年、40年、50年、60年の熊本YMCA永年在籍会員に、これまでの長きにわたる奉仕に感謝し、感謝状と記念品が贈呈されました。続いて、YMCAの活動を支えた諸団体、個人に表彰が行われました。

第一部 礼拝

「Be One 一つになって」

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団熊本聖書教会
長澤 忠雄さん

YMCAの使命と精神を持ち、共に歩みましょう

2017年度の熊本YMCAの基本聖句は、ヘブライ人への手紙13章5節、「わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにほしくない」です。

これは1300年も前に、モーセが新しい指導者になるべきヨシヤに贈った言葉を元に行われています。申命記31章には、「強く、また雄々しくあれ。(中略)主御自身があなたに先立って行き、主御自身があなたと共におられる。主はあなたを見放すことも、見捨てられることもない。恐れてはならない。おののいてはならない」とあります。

熊本YMCA大会のテーマは、「共に歩む復興への道」です。被災者と共に、様々な人が一つになって、共に復興に取り組みと理解できます。

新約聖書のマルコによる福音書5章25節の話をしましょう。12年の間病気に苦しんでいた女がおり、イエスのことを聞いて「服にでも触れればいやしていただける」と言い、ある日、イエスを通った際、周囲に数多くの人がいた中、女は裾に触れ、病は癒されました。イエスは誰が触れたのかと振り返りましたが分かりません。しかし、自分の体から力が出て行くのを感じました。

ここから3つのことがいえます。まず、「イエスのことを聞くこと」が大切です。教会は直接イエスにふれる場所ですが、YMCAはキリストの精神にふれ、賛成した人が一つになって使命を達成していく場所だと思っています。熊本YMCAは、熊本バンドの愛と奉仕の精神を受け継いでいます。全ての人一つとなるために働きましょう。一つとなって共に歩みましょう。

次に「告白」です。病の女は「いやしてただけ」と言っていました。私たちは、熊本YMCAの6つの使命、精神を記憶し、共に口にし、共に行う。そして、YMCAの精神と使命を共有していただきたいと思っています。

最後に、「トライすること」です。病の女は信仰を持ち、心からイエスの裾に触れました。口にするだけでなく、行動することです。共に、YMCAの会員となり、委員としてボランティアを行うこと。体が動かなければ祈ること。YMCAと関わって、常に人と関わって生きるということです。復興は共に歩むことによってなされると、私は信じています。

新常議員紹介

定期総会において次の15名が常議員に選任されました。任期は2017年6月1日～2021年5月31日までの4年間です。

- | | | | | |
|---------|---------|----------|----------|---------|
| 岩本 芳久さん | 大崎 隆義さん | 小川 祐一郎さん | 佐藤 通彦さん | 角本 浩さん |
| 立野 泰博さん | 朴 哲浩さん | 福島 貴志さん | 藤田 香織さん | 藤本 義隆さん |
| 宮崎 隆二さん | 守田 富男さん | 横田 佳恵さん | 吉本 貞一郎さん | 来海 恵子さん |
- (順不同)



今回初めて常議員に選ばれた3名をご紹介します。



岩本 芳久さん
所属:水前寺委員会
これからのYMCAをより良くするために微力ですが頑張ります!



佐藤 通彦さん
所属:専門学校委員会
ワイズメンズクラブに加えて、もう一步深くYMCAに関わること、楽しみにしています。



藤田 香織さん
所属:阿蘇委員会
これまで紡がれてきたYMCAの活動が次につながるようにお手伝いさせていただきます。

大会開催

■5月27日(土)
■益城町文化会館

昨年度は熊本地震の影響で開催できなかった熊本YMCA大会。今年度は地震で大きな被害を受けた益城町で、復興への想いを寄せながら開催されました。

ランチタイム



豚丼、カレー、うどんなどワイズメンズクラブをはじめ様々な団体の協力によりバザーが出店され、会員の交流の時間となりました。

第4部 音楽の集いとトーク



YMCA水前寺幼稚園の園児による歌と演奏、益城町山中学校吹奏楽のすばらしい演奏がオープニングを飾った後、パーキンソン病を患いながら音楽活動を続ける樋口了一さんが、それぞれの曲に込めた思いとともに歌声を披露しました。

第5部 発表及び活動報告



YMCA体操チームの演技、YMCA学院日本語科の留学生によるスピーチ、ユースリーダーの活動報告、ワイズメンズクラブの活動報告、震災支援活動報告がありました。熊本地震被災児の心のケアキャンプ「あおぞらキャンプ」の参加者による発表も行われました。

第4部 『音楽の集いとトーク』

全てのことに理由がある

シンガーソングライター 樋口 了一さん

私は自分の子どもが生まれてくる瞬間、命が“わーっ”と広がっていく感覚を覚えました。そして、私の子がどこからやってきてくれたのかは分からないけれど、私たちの魂が帰って行くところからだろうと思いました。子どもが少しずつ成長していく中で、泣いたり笑ったりする顔を見ていると、神様は誰にでも宿っていると日々感じています。

私のある知人の子どもはダウン症です。最初は夫婦で戸惑ったそうですが、今は「この子は人生の試練を乗り越える最もふさわしいパートナーに、私たちを親として選んで生まれてきてくれた」と話します。そしてその子は今、一生懸命に生きています。

私は10年ほど前からパーキンソン病を患っていますが、私はこの病いを、「荷物」だと思っています。英語では、病いを“have”つまり“持っている”と表現するそうです。神様は、私を選んでこの「荷物」を背負わせてくださっているのでしょうか。ですから、いつか必ず降ろす時が来るとしています。人間には、理由がなければ耐えられないことがあります。私のこの病いにも、他の全てのことに、理由があるのだと思っています。



熊本地震支援活動記録誌

『明日へつなげる使命を得て』

熊本YMCA大会にあわせ、これまでのYMCAの熊本地震災害復興支援活動をまとめた記録誌『明日へつなげる使命を得て』を刊行しました。



明日へつなげる使命を得て (64頁版)

編集/熊本YMCA 定価/1,000円(税込)

ご希望の方は下記までお問い合わせください。
熊本YMCA本部事務局CI部
熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397 FAX 096-324-7877
e-mail icr@kumamoto-ymca.org

総主事のタラント Vol.38



新たな時代へ

1948年から続く熊本YMCAの歴史は、先人たちが使命を掲げ、地域と共に一つになって築いてきたものです。熊本YMCA大会では、その原動力ともいえる永年在籍会員の皆さんの表彰を行いました。60年在籍の岡崎源次さん、山本了さん、50年の米倉容子さんをはじめ、40年、30年、20年、10年在籍の皆さん、昨年度表彰を行えなかった方々も含め、対象は102名です。また、「熊本YMCAフットボールクラブ」が設立50周年を迎えたことを記念して、熊本

YMCAサッカーの生みの親である緒方健司さんと山本清洋さんを特別表彰とし、当日出席された山本さんに表彰状が手渡されました。

1964年の東京五輪以降、日本ではサッカーブームが起こりました。熊本でもサッカークラブをつくるのが待望されていた1967年2月、熊本県サッカー協会とタイアップしてサッカークラブをつくったのが熊本YMCAです。

YMCAのコーチであった緒方健司さんは、熊本県下にサッカーの輪を大きく広げていく礎を築かれました。その中で重視したのは、勝つためだけでなく、基礎の反復、ルールを守ること、各自の役割を担うこと。当時を知るYMCAの元職員は、「あまり上手でない子ども試合の中で、出番をつくって出場させていた。勝てそうな試合を落とすこともあったかもしれない。しかし、チームのすべての子どもたちのやる気を引き出しながら、皆でサッカーを楽し

んでほしい、思いやりを持ってプレーしてほしいという願いを持って指導されていた。すばらしい指導者だった」と話しています。技術や戦略等の知識を伝えるだけでなく、サッカーを通して人間教育を行っていたのです。

全国のYMCAは「みつかる。つながる。よくなる。」というブランドコンセプトを掲げ、運動や事業を展開していきます。先人の働きによって今日があることを忘れず、これからも地域の求めに対して、地域や会員と共に「人財」をつくっていく働きを行います。

YMCAに集う人々が、ここで、誰かと出会い、つながることで成長し、生きていく希望をもたらす。そのような連鎖が世界を変えていく力となり、平和を創造していく原動力となります。「よくなる」という意味をしっかりと受け止め、新たな時代へ向けて、一人ひとりを育てていきたいと思えます。

talanton

Information 行こう 見よう 深めよう

7月23日 Sunday

木山仮設団地夏祭り

交流
×
祭

益城町の木山仮設団地にて、夏祭りを開催します。仮設団地や地域の皆さんの交流の時間になることを願っています。

日 2017年7月23日(日) 18:00~21:00
場 木山仮設団地(益城町木山866-1)
問 木山仮設団地地域支え合いセンター
TEL 096-285-1717



益城町総合運動公園で行われた昨年の夏祭り

7月28日 Friday

フィランソロピー協会 企業交流会onビール列車

企業
×
交流

大人気のJR「爽快!ビール列車」を1両貸切(3両編成)。新たな人と情報との出会いのチャンスです。ビールと車窓からの風景を味わいながら、業種や立場を超えて交流を深めませんか。

日 7月28日(金)
集合・解散 18:20熊本駅前広場(熊本駅電停そば)
集合/ 21:15熊本駅着・解散(予定)
費 6,000円 ①熊本・八代間往復JR券②ビール飲み放題③お弁当代が含まれます
申 所定の申込書に必要事項をご記入のうえ、事務局までメールまたはFAXでお送りください。
問 YMCAフィランソロピー協会
(事務局 公益財団法人熊本YMCA)
TEL 096-353-6397 FAX 096-324-7877
E-mail ymca.philanthropy@gmail.com
催 YMCAフィランソロピー協会
旅行企画・実施 九州旅客鉄道(株)九州旅行熊本支店



7月30日 Sunday

今年もやります! 上通チャリティ市場

チャリティ
×
楽しむ

上通YMCAでは今年もゆかた祭に合わせて「上通チャリティ市場」を開催します。食器、日用雑貨のみの市、スイーツコーナーなど盛りだくさん。収益はすべてYMCA国際協力青少年育成募金と熊本YMCAの公益活動に充てられます。

日 2017年7月30日(日) 10:00~
場 上通YMCA(上通アーケード内)
問 上通YMCA TEL 096-352-2344



8月4日~8日

この夏!広島で平和について考える! 国際青少年平和セミナー

交流
×
学ぶ

日本はもちろん、海外の若者も参加。育った国や環境が違えば戦争・平和に関する考えも違います。違いを受け止め、平和について、自分たちにできることを見だし、平和の大切さを強く胸に刻みます。

日 8月4日(金)~8日(火) 場 広島市・廿日市市
問 青少年(高校生・専門学校生・短大生・大学生)
費 90,000円(熊本~広島の交通費含む)☆助成金有り。詳細はページ下部 催 広島YMCA
問 熊本YMCA 国際事業部 TEL 096-353-6397



8月30日~9月9日

出会うべき世界が、そこにある 第22回タイ・ユースワークキャンプ

ワーク
×
学ぶ

北部タイ山岳少数民族の生活や文化にふれ、相互交流や異文化理解を深めます。ワークでは、タイの人々と協力して生活設備を整備。また、タイの抱える問題や文化・歴史についても学びます。

日 8月30日(水)~9月9日(土) (9泊11日)
場 タイ国チェンライ県・パヤオ県
問 高校生以上35歳までで、健康状態に問題がなく、主体的に参加する意志のある方
定 20名(最少催行人員10名)
費 185,000円☆助成金有り。詳細はページ下部
※フライトの予約状況等により、参加費の価格変更を行う可能性があります。
※燃油サーチャージ、空港税、パスポート取得代金は含まれません。
企画主催 公益財団法人 熊本YMCA 旅行主催 (株)日専連ツアーズ 観光庁長官登録旅行業第1085号
問 上通YMCA TEL 096-352-2344



☆国際青少年平和セミナーとタイ・ユースワークキャンプは青少年に限り、最大で半額の助成が受けられます。助成を受けるには申請が必要です。助成額は申請後の審査により決定します。申請条件等詳しくはお問い合わせください。

日 日時 場 会場 内 内容 費 参加費 定 定員 案 参加条件 問 持ち物 問 対象 催 主催 網 締切 申 申込 問 問合せ 他 その他

発行所 / (公財) 熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)
発行人 / 岡 成也 編集人 / 富森 靖博
定価60円 購読料は会費に含む
www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2017年度基本聖句

ヘブライ人への手紙 13章5節
わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにしない。